



第9号 (2016.5.1)
発行: 獨協大学地域と子ども
リーガルサービスセンター

ちこり通信

旧センター長退任のご挨拶

徳永光 (法科大学院)

この3月で、センター長を退任いたしました。お引き受けした当初は、これほど長く務めることになるとは思いませんでしたが、3期6年間、おかげさまで大過なく、任期を終えることができました。どうもありがとうございました。

専門相談やおやこ大学講師の先生方、草加市職員のみなさん、ボランティアで協力していただいた市民のみなさんに学生さん、ワークショップや講師をお引き受けいただいた先生方、地域の子育て支援団体のみなさん、(挙げたらきりがありませんね^^;) 個別の相談ケースで連携していただいたみなさん、センターのイベントに参加して下さったみなさん、そして、もちろん獨協地域と子ども法律事務所とセンタースタッフのみなさんには、大変お世話になりました。

センターに寄せられる相談ケースを通じて、さまざまな家族問題、教育問題に触れる機会を得ました。一朝一夕には解決できない難しいケースがほとんどでしたが、子どもや家庭を支えるために、日々多くの人々が労を惜しまず活動されていることも、支援者同士の連携の大切さも、知ることができました。

法律事務所を付設している法科大学院はいくつかありますが、センターのような相談機関を有するところは、他に例がありません。このような先進的な組織の運営に携わることができたというのも、貴重な経験でした。

また、運営の立場からみて、相談機関の成否は、スタッフの質によるところが大きいということを実感しました。この点、相談内容の中から問題を探り出す感覚が高く、人当たりもよく、対応方法も柔軟なスタッフに恵まれたことは、大変ありがたいことでした(もう部外者なんですが…、手前味噌でしょうか。笑)。私にとっても、センターは大変居心地のよい職場でした。

センターは、来年度10周年を迎えます。法科大学院の方は残念ながら閉鎖されますが、センターは存続することになりました。これはひとえに、地域のみなさんが、センターを、子育て支援ネットワークの一環として受け入れて下さったおかげだと思います。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

センターが、身近で頼れる相談機関の一つとして、ますます発展することを祈念しております。



今まで
ありがとう
ございました!



センター長からの新任のご挨拶

花本広志 (獨協大学法科大学院)

清々しい五月晴れが快い季節となりましたが、みなさまにおかれましては、それぞれの領域においてますますご活躍のこと拝察いたします。また、日頃より、当センターの活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年まで6年間にわたり当センター長を務められた徳永教授から職務を引き継ぎました花本と申します。当センターには、準備段階から関わってはきましたが、子どもの問題についてこれまで専門的に勉強したことはなく、なにぶんにも不案内ですが、みなさまのご協力およびセンタースタッフの助力を得ながら、少しずつ理解を深めつつ、センターの活動をこれまでどおり継続するとともに、さらに発展させていきたいと考えています。私個人としては、「自立した個人」の確立がますます求められていることから、子どものための法教育により積極的に取り組んでいきたいと考えているところです。

さて、おかげさまでもちまして、当センターは、本年度10年目を迎えます。来年度の3月には、10周年の記念シンポジウムを企画しているところです。シンポジウムの詳細は、企画内容が確定し次第、ホームページ等を通じてお知らせしますが、当センターと関わりの深い専門家をお招きし、それぞれの専門的観点から見た子どもの現状をお話いただいた後、センターとの連携の成果や課題について、ご意見をいただくとともに、センターに限らず、地域の行政機関や支援機関との円滑な連携の取り方などについて、ご議論いただく予定です。

もちろん、相談支援の活動や連携及びネットワークのための活動、おやこ大学、専門相談、ワークショップや大学探検などの子ども向けの企画、リーガルクリニックの実施協力、研修会の開催などの活動もこれまでどおり実施してまいります。

ところで、今年度いっぱい、曾田さんが退職される予定であることから、その後任の予定で、さしあたりは臨時のスタッフとしてですが、茨木画子さんに来ていただいています。他方で、高坂さんが今月末から産休に入られます。しばらくすると、かわいい赤ちゃんを見せていただきたいと思います。9月中ごろすぎまでお休みとなります。センター長を含め、センタースタッフには多少変動がありますが、今後も引き続きよろしくお祈り申し上げます。

<<センター長近況>>

思春期の息子(高2)との距離感を測りかねている父親の1人です。本来の専門は民法なのですが、このころは、法学教育方法・法曹養成教育方法論に傾注しているところです。その過程で、「人は、どうすれば効率的・効果的に学習できるか」を科学する「学習科学」にはまっています。一般向けの本では、『使える脳の鍛え方』(NTT出版)や『脳が認める勉強法』(ダイヤモンド社)がお勧めです。数年前にタバコをやめたら太ったので、ジョギングと筋トレで10kgほど痩せたのですが、最近はサボリ気味でリバウンド中です。



獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター

目次

ページ 項目名

- 1 センター長からの新任のご挨拶
- 2 旧センター長退任のご挨拶
- 3 2015年度
センターの相談支援活動の概要(1)
- 4 2015年度
センターの相談支援活動の概要(2)
- 5 新米パパとあかちゃんのおやこ大学
- 7 夏休みイベント、草加市共催講座
- 8 今年度の予定など

新スタッフ紹介 ~茨木画子さん~

本年4月より新スタッフとして茨木さんが仲間入りしました。教員や学童指導員など豊富な経験をお持ちのとても頼りになる方です。よろしくお祈りいたします。

<<自己紹介>>

おやこ大学のボランティアを長く務めさせていただいたご縁で、この4月から、仲間に加えていただくことになりました、茨木画子(いばらきかこ)と申します。まだ右も左もわからない普通のおぼちゃんではありますが、何かみなさまのお役に立てれば幸いです。インディアカ(超マイナーなニュースポーツ)やっています。スポーツ観戦や読書が好きです。どうぞよろしくお祈りいたします。



2015年度センターの相談支援活動の概要 (1)

高坂里緒 (相談スタッフ)

※受付件数

2015年度に、新規に相談を受け付けた件数は118件で、ほとんどが埼玉県内からの相談でした。

新規相談のうち、一般相談(センターに相談対応を求めるもの)が103件、コンサルテーション(子どもに関わる機関・団体の関係者からの、子どもや親、関係先への対応や連携先についての相談)が15件でした。地域の学校や学童さんや行政職からのコンサルテーションが大半を占めています。

センター開設以来、長期にわたり継続している相談ケースもあります。2015年度の継続件数は、48件でした。これらに新規受付件数の118件を併せ、2015年度中の対応相談ケースは166件ありました。

長期間にわたり継続しているケースには、親子関係や経済状況、障がい・疾病等、問題が複合した家庭が多くあります。卒業や転居などによって、学校や行政機関での支援が終わってしまったり途切れてしまった場合にも、センターでは情報共有や引継ぎをして相談者さんのニーズがある限り、基本的に支援が続きます。長くセンターが関わっているケースにおいても、地域での支援先を探したり、新しい入学先との情報共有を事前にするなどで、相談者の方にとっての最善の選択肢が提示できるように努めてまいりたいと思っております。

新規相談受け付けを行ったうち、100件は、センタースタッフによる傾聴や助言による支援を行いました。また、センターで相談を受けてから、他の専門機関等への紹介・移管を行ったケースが6件ありました。また、センターで毎月おこなわれている、専門家による面談相談につながり、そのまま医療機関や心理カウンセリングなどにつながったケースが12件です。

センターの紹介・連携先としては、地域の子育て支援センター、獨協医科大学病院、埼玉県立小児医療センター、中川の郷療育センター、などが主に挙げられますが、医療機関などへはリーガルセンターからの紹介で予約などが早く取れるわけではありません。このところ発達障がい診られる病院や療育機関は3.4か月待ちなどがほとんどで、保護者の方などの不安や焦りは募るばかりかと思えます。センターには、保育士の資格、幼稚園教諭、特別支援学校教諭の免許を持ったスタッフや小・中・高の教職免許を持ったスタッフも在籍しておりますので、医療機関に繋がるまでの期間、保護者の不安に寄り添い、子どもと一緒に来所してもらったりしながら、子どもの特性を見極め、それぞれのケースに沿った支援を心掛けたいと思っております。

そのほかの紹介先としては、医療機関、臨床心理士、併設法律事務所以外の弁護士などがあります。当初の相談内容が法的支援を求めるものであることも少なくなく、これは法律事務所を併設する当センターの特色と言えます(実際に法律相談へつなぐべきケースかどうかは、具体的な相談内容を伺ってから、相談者とスタッフが、必要があれば併設法律事務所の弁護士の助言も得て、検討することになります)。

◆新規相談件数

一般相談	103
コンサルテーション	15
計	118

◆相談対象者の所在地

県内	113
県外	4
不明	1
計	118

◆新規相談の支援等の状況

相談、助言で対応	100
専門相談へ	12
他機関紹介	6
計	118

◆今年度の対応相談件数

前年度からの継続	48
2015年度新規受付	118
計	166



2015年度センターの相談支援活動の概要 (2)

高坂里緒 (相談スタッフ)

※相談内容

2015年度の新規相談の内容としましては、子育て不安や家族関係の問題に比べ発達障がいや軸とした相談ケースが多くなった印象です。「発達障がい」や「自閉スペクトラム症」という言葉が相談者さんの間にも浸透してきており、その関連本も多く手に取る機会が増えたことも関係しているのかもしれませんが、相談者さんからの電話の中で「うちの子発達障がいなんじゃないかと思って…」と言われることも増えてきました。また、この分類は相談者さんからの初めの段階での主訴を大まかに割り振ったものなので、いじめや不登校、子ども同士の人間関係、非行のケースなどにも発達障がいや親子関係の問題が含まれている場合も数多くあります。

体罰や学校等の対応に関する相談も引き続き寄せられています。長引いてこじれてしまった両者の信頼関係によって、当事者であるはずの子どもへの視点がないがしろになってしまうケースも見受けられます。センターでは、保護者の方の気持ちも傾聴することを心掛けますが、子どもにとって最善の利益を優先的に支援しますので、ときには保護者の方の意向に沿えないこともあります。学校や地域の子育て支援施設とも協力し、役割分担をしながら、相談者の方のニーズに答えていけたらと思います。

※相談対応

2015年度の相談対応件数は、のべ1,121件となりました。電話での対応が主ですが、相談者の方がセンターに來所して行われる面談も多く行っています。センターに相談に来る子ども達の中には、新奇場面が苦手だったり、警戒心が強いという特性を持った子どもも多いです。そんな子ども達には、専門家との面談日前にセンターに來所し、探検したり、少し遊んだり好きなように過ごしてもらいます。相談当日には、少しでも慣れた状態で子ども達に専門家の先生に会ってもらえたらと心掛けております。

体罰や学校対応問題の相談ケースでは、相談者と一緒に学校との話し合いの場に同席したり、学校での子どもの様子を観察しに行くこともあります。また、医療機関と連携している相談ケースでは、病院の診察に付き添ったり、さらに関係機関とのケース会議に参加することもあります。個々のケースに合わせてオーダーメイドで支援していくことを心掛けて、これからも子どもの最善の利益のために活動していきたいと思っております。

◆相談内容

発達障害	21
子育て不安	15
不登校・引きこもり	12
家族関係・親子関係の問題	12
子どもの心理面での不安	10
離婚・DVの問題	8
養育・親権の問題	7
その他	7
学校等の対応の問題	6
子ども同士の人間関係	4
就学・進路の問題	4
虐待・養育困難	3
非行・虞犯	3
体罰・暴言	3
いじめ	2
法的支援	1
計	118



◆相談方法

電話	901
メール	45
訪問	6
来所	155
その他	14
計	1121

◆対応内容

相談	798
連携・調整	103
付添い	1
観察	14
経過観察	13
紹介	2
その他	190
総	1121

新米パパとあかちゃんのおやこ大学

星島由香（相談スタッフ）

埼玉県少子政策課が募集した「平成 27 年度子育て支援のネットワークづくり応援事業」の企画に応募したところ受託され「新米パパとあかちゃんのおやこ大学」を開催することができました。このイベントは、11 月から 12 月にかけて行った 3 講座とおまけ企画の 4 日程からなり、親子で参加できる内容にするため、練りに練って作り上げたものです。講座名にもあるように「パパ」と「あかちゃん」が主役です。しかしながら、ママが不在だと若干(いや大いにかも…)不安が残るため、ママにはお隣の部屋で待機してもらうこととし、その間ママにも別の講座を用意しました。運営委員としてご協力をいただいた支援団体や個人のみなさんが講師としてご活躍くださったお蔭で、多くのプログラムを組み合わせることができました。少し強行手段ではありましたが、講座中の 1 時間半は授乳以外完全に父子で過ごしてもらうことをルールとしました。

プログラム

第 1 回 パパ講座：タッチケアとおやこヨガ ママ講座：クリスマスリース作り

第 2 回 パパ講座：あそびと絵本講座 ママ講座：スクラップブック作り

第 3 回 パパ講座：離乳食講座 ママ講座：食育講座

おまけ企画 おやこ・支援者でクリスマスパーティ

<タッチケアとおやこヨガ>

急にママから離れて戸惑うベビーたちの泣きの大合唱からスタート。そんな賑やか(?)な中、月齢の近いチームごとにグループを作り、丁寧にマッサージの仕方を教えていただきました。先生の手にかかると、さっきまで大泣きだった赤ちゃんが泣きやんだり、「アーウー」と会話を始めたりして…。機嫌よく心地よさそうなのが子の様子を間近で見たパパさん方、一生懸命挑戦していました。ヨガを取り入れた体あそびでは、パパお得意のダイナミックな動きであちらこちらからキヤッキヤと声が上がっていました。

<あそびと絵本>

手あそび、リズムあそび、わらべ歌などを用いて、あかちゃんの鼓動に合わせることで生まれる心地よさの重要性、発達に合った絵本を選ぶコツなどを学びました。パパ向けの講義中はザワザワしていたあかちゃんが、絵本を開いて読みだすと「レーン」と静まり返り、場内は静寂に包まれました。「こんなに小さいのに、絵本聴けるんですね」と驚くパパの声がありました。

<離乳食講座>

この回のルールは「あかちゃんをおんぶが抱っこで参加」です。この日初めておんぶをしたというパパがほとんど。居心地の悪さから泣き止まないベビーちゃんが続出!! どうなることやら…やっぱり無理かしら…とあきらめかけた開始 30 分ほどたったころ、徐々に泣き声が止んできました。パパの背中に慣れたのだと思います。始める前に「ママさん方は自分の中であかちゃんが育つか



支援者会議の様子



タッチケアとおやこヨガ



クリスマスリース作り



あそびと絵本



スクラップブック作り



離乳食講座

新米パパとあかちゃんのおやこ大学 ~前頁より続き



離乳食講座



クリスマスに向けて

ら、お腹、つまり中のあかちゃんをかばいながら生活しています。生まれてからおんぶや抱っこをする時も、赤ちゃん分が自分の体の一部となっている感覚があるので、無意識のうちにぶつからないように行動できます。でもパパさん方にはその経験がありません。自分の一部と捉えることに慣れていないので、おんぶ姿で作業しそちらに意識が集中すると、あかちゃんの頭が柱にガンなんてことになりかねません。それを避けるためには、たくさんおんぶや抱っこを練習して、自分の体の一部と感じられるようになるまで経験値を上げることだと思います。今日の講座をその一歩にしてほしいと思います。」というお話をしました。離乳食講座では、この心身ともに大きな負荷がかかった状態で、鯉節と昆布で出汁をとってもらいました。最後に食育講座から戻ったママも合流し、みんなでパパが作ったランチを食べました。パパさん方がとった出汁でつくったお味噌汁、とっても香りの立つ優しいお味でした。さすがにママさん方も驚いていらっしゃいました。

<おまけ企画>

市販の材料で簡単にできるクリスマスの菓子デコレーション講座(試食つき)とクリスマスカードづくり講座、そしてパパさん方の奮闘ぶりを記録したビデオ鑑賞をしました。父子の部屋に入れなかったママさん方からは、「ちゃんとお世話できてる\((\textcircled{\circ})\textcircled{\circ})/\)」 「家でもやって(°Д°)」など様々な感想が聞こえてきました。

4 日間で 80 組あまりのおやこさんと 60 名の支援者の方々に参加してくださいました。3 講座すべてクリアしたおやこさん 7 組には修了証をお渡ししました。うち 3 組のママは、通常センターで開催する「新米ママのおやこ大学」の修了生さんとのことで、びっくりするやら嬉しいやら、スタッフも様々な感情がこみ上げてきて胸が熱くなりました。

「一億総活躍社会の実現」が政府の重要な取り組みとなっていますが、現在もっとも大きい課題となっている「女性の就労に伴う保育問題」はなかなか解決の兆しが見えてきません。これまでも「エンゼルプラン」「新エンゼルプラン」「子ども・子育て応援プラン」と様々な子育て支援政策が施行されてきましたが、これらでは追いつけないほどのスピードで事態は進んでまいりました。また、現在は母親の就労と保育の課題となっていますが、一日も早い段階で「親の就労と保育の課題」と捉える必要があると考えます。このことは父親の課題でもあるからです。環境が整わないうちに就労を促して、結果的に働く意欲をそくようなことがあってはならない、質が問われるような施設で、子どもの養護や教育が行われることも避けなくてはなりません。「新米パパとあかちゃんのおやこ大学」に参加して下さったパパも、実はあかちゃんとも関わりたいと思っている方がほとんどでした。今回、ママの手助けを借りずにじっくりとあかちゃんと向かい合う時間を過ごし、自信を深めたパパもいらっしゃるでしょう。どんなに少子社会であったとしても、子どもを産む、育てる、専業で子育てや家事をする、預けて働く等、それぞれのライフスタイルが尊重され理解される社会であってほしいと願っています。それらが強要されたり、否定されたりすることなく、子どもたちがその子らしさを思う存分発揮し成長していくことのできる社会を、私たち大人が作っていかなくてはならないと強く感じています。

最後になりましたが、これまでセンターの活動にご理解ご協力いただきましたこと、この場をもちまして深く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



募集時のチラシ

当センター主催 夏休みイベント

会田寿美（相談スタッフ）

夏休み子どもワークショップ2015

わたしたちのまちの川「でんう川を調べよう」

2015年度のワークショップの企画は、経済学部米山昌幸教授と先生のゼミの皆さん、白鷺会の皆さんに全面的な協力を受け実施されました。8月19日、でんう川の大学の上流、大学の前、大学の下流の3班に分かれ、川の様子を調査いたしました。生き物が元気に生息していることに驚きました。20日にその結果を壁新聞にまとめ発表しました。（川の調査に当たり、綾瀬川を愛する会の皆さまにご協力いただき、ありがとうございました。）

夏休み大学たんけん2015

毎年行われている大学探検ですが昨年から地域の親子を対象として大学の中を探検して歩き、それぞれのチームに分かれミッションをこなすという企画を行いました。

暑期中、熱中症に気をつかいながら、ミッションの為、汗だくで歩き回り、最後は学生食堂で途中参加のおじいちゃんおばあちゃんも含めランチをいただきました。

第15回 草加市子育てフェスタ

会田寿美（相談スタッフ）

草加市の子育て支援団体と草加の親子を結びイベントが9月12日（土）にひらかれました。大変盛況で来場者はおよそ1600人とのことでした。毎回、各団体が工夫を凝らした出し物を用意し、参加された親子さんに評判を得ています。当センターは昨年人気のあった助六寿司とフェルトとのおい袋を作りました。用意した200組の材料が足りなくなるほどでした。

2015年度草加市共催 子育て支援講座

会田寿美（相談スタッフ）

本年度草加市共催講座は下記の4つの講座を開催いたしました。1回目はパパと赤ちゃんのペアでの参加、ママは付き添いでした。2, 3, 4回は別室にて赤ちゃんは保育を受け、親御さんがゆっくりとお話を聞けるようにいたしました。ご夫婦での参加が3割方いらしたようです。

第1回「パパと遊ぼう」～月齢に合わせた遊び～（10月4日）

講師・氷川児童センター長 下村 一氏

パパと赤ちゃんがペアとなって半日楽しく遊びました。パパ同士のコミュニケーション、お子さんとのコミュニケーションを上手に取りながらゲームをしたり、体操をしたり、身の回りのちよとした物で遊んだりと五感をフルに使って遊びました。ママは「パパと赤ちゃんが自然に触れ合い、遊べるようになって欲しい、出来ればママの時間も保証して欲しい」と願い、パパに参加を促していたようです。ママの思惑はピッタリ。参加されたパパたちの満足そうな顔を見て主催者の私たちもパパが主役の子育て講座の必要性を強く感じました。

第2回「子供のアレルギー疾患と対応」～学んで食を広げよう～（11月7日）

講師・獨協医科大学小児科 准教授・吉原 重美医師

昨年に続き皆様の要望が多く、実際にアレルギーで悩んでいる親子が増えてきたこともあり吉原先生に今年もアレルギーについて最新の研究をもとにお話をさせていただくことになりました。

次のページへ

2015年度草加市共催子育て支援講座～前頁より続き

アレルギーによって成長を促し、日々の楽しみでもある食生活を狭めることは悲しいことです。子供の体が成長し消化器官もしっかりしてくるに従い、アレルギー反応を示す食べ物も少なくなっています。アレルギーを心配されているお父さんは小学校入学時、10歳ごろ、15歳ごろと、医師による検査を受けることを勧め、最新の治療法を紹介され、無駄な我慢を強いることがないように話されました。親御さんが一番悩んでいるアナフィラキシーになった時の対処法ではアナフィラキシー補助治療剤・エピペンを実演して見せてくれました。

第3回「乳幼児と絵本講座」～大人に読んでもらう絵本の魅力と親子の絆～（12月5日）

獨協大学 井上靖代教授

井上先生は経済学部教授です。ご専門は図書館情報学です。世界中の子供の本、絵本に造詣が深く、更にご実家が保育園をされているとのこと。世界中の絵本の紹介と共に、発達に合わせた本の選び方、絵本の構成の工夫などでもお話しいただきました。絵本と子供の関係、親と子と絵本との関係など、子供たちの情感が豊かに育つようにと熱心にお話しいただきました。

第4回こどものほめ方・叱り方講座（1月23日）

埼玉県立大学准教授 林恵津子先生

発達のご専門の林先生に「子供のほめ方・叱り方」のお話を伺いました。こどもは穏やかな環境の中で思考力が育ち、感情抑制が可能になります。体罰は大人の衝動的な感情の爆発に過ぎず、子供に恐怖だけが残り思考が停止してしまいます。子供が育つということは「脳が発達すること」でもあるのです。ご自分の子育てを例に交えながら、乳幼児期から穏やかな環境を作り、親子の愛情の結びつきが大切とお話をいただきました。更に子供の育つ力を伸ばす効果的なほめ方叱り方を学びました。

2016年度開催を予定している講座・イベント

- およこ大学 4月、9月、1月の3期開催。各4回コース
- 夏休み子ども向けイベント 8月 大学たんけん、ワークショップ
- 草加市共催講座 11月開催 アレルギー講座（獨協医科大学小児科 吉原重美医師）
医師・臨床心理士・教育カウンセラーによる無料面談相談
地域で開催される子供向けイベント（子育てフェスタ等）への参加
各所からの依頼による講演会の講師 他
- 開設10周年記念イベント 2007年に開設された本センターが開設10年目となります。
3月にシンポジウムなどを予定。

【編集・発行】 獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター
〒340-0041 埼玉県草加市松原1-1-10 TEL: 048-946-1781 FAX: 048-946-1782
Email: kodomolc@dokkyo.ac.jp URL: <http://www2.dokkyo.ac.jp/~kodomolegal/>
電話相談（月曜～金曜 9時～17時）048-946-1771